
UNLIMITED STARS

ゴクト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

U N L I M I T E D S T A R S

【Nコード】

N 1 8 1 7 J

【作者名】

ゴクト

【あらすじ】

君達は思っていないか？こんな事があればと、世界観の違うゲームのキャラや、あらゆるものを……

これはそのもしもが、現実になってしまふ、そういう作品である

2009・12・28（前書き）

注意！

本作は、あらゆるゲームなどのクロスオーバーをしております
キャラなどに原作崩壊などがある可能性も高いです

見るなら、最後まで見て下さい。

万が一こちらのイメージが強くなっても私めは責任を一切取りません

それでも、見ますか？

《はい》

いいえ

2009・12・28

人は、必ず脳に創造する能力を持っている

文化、機械、料理、富、未来、芸術、天地、そして妄想

もしもあれがこうなり、コレがそうになったら……

あれがもし生きていたら……

俺だったらあれをこうして……

そんな妄想が私達の脳に存在している

ではもし、それが現実の物となったら？

悔いるだろうか？

歓喜するだろうか？

この物語は、ある一つのきっかけで起こった、二次創作と言つ名の
妄想

そして戦記である

2009年12月28日

「場所不明」

「架空と現実の世界を一つにですか？」

男性は、ピンク色したポニーテールの女性にそう呟いた

女性の体型は、一言で言い表すとナイスバディで、背は少しだけ低

いが、キュートな顔付きと笑顔が、背の低さを補うくらいに愛くるしい……

「そう、一見ただの夢話見ただけ……この計画は今拡大しているあの勢力に対抗できる唯一の手段なの」

その彼女が、一つのカードのような物を取り出すと、眼前で起きている光景をみて男にそう言った

眼前では、戦争が起こっている
しかも、こちら側が不利な状態で

「あの勢力……《エグザミナ》の事ですか？」

「ええ……実際、今の人達ってゲームや漫画のクロスオーバーとかってやってるでしょ？アタシはそれを現実も混ぜて、一つの世界を作るの、そしてその世界の創造が……」

男の問いに、彼女はその場でくるんと回り、男に向き直ると

「アタシの『女神』としての最初の仕事なんだからさ」

とウインクをして言った

「ですが、一応言っておきます、貴方はアルムレッテ家の跡取りだと言うことを」

「分かってるわよ、どうせアルムレッテはアタシしかいないんだし、
ことも時期にお別れになるわ……」

彼女は胸に拳を置き、その拳をにぎりしめた

「……………もう行くね。アタシ」

「……………リミ様、どうかご無事で」

彼女、リミは真剣な表情を男に見せて、横にある扉に入って行った

「女神はここか！」

「……………っ！」

彼女が入ったと同時に、別の部屋から入って来たマントを羽織った青年が、男の胸に剣を刺し、無慈悲にその心臓を貫いた
男は血を吐いて、その場で事切れる

「各部隊、探せ！女神はこの部屋にいたことは確かだ！」

青年はマントの裏からAK-47を取り出すと、人が隠れる場所を手当たり次第発砲する

「……………いないだと！？」

「隊長、女神のいた痕跡は確かにあるのですが……………」

「ですが……………何だ？」

青年は険しい表情で部下を睨みながら聞く

「……………女神は既に逃げたようです。しかも、女神は《渡り》をも持っておりまます故、見付けることは限りなくゼロに近いかと……………」

「……………ふざけるなああ！」

逆上した青年は、周りにいる部下を一太刀で切り捨てると耳に付けている無線に連絡をした

「エリコード1より、カオスに報告。作戦成功しましたが、女神を逃がしてしまいました……………」

《よい、我々エグザミナの第一の目的は、この天界を制圧すること

だ、所詮小娘一人殺したところで……」

「ですが、彼女は仮にも女神です。あまり野放しには出来ませんでしょう」

《……分かった……では今からお前に指令を言い渡す……よく聞くのだ》

「はっ！」

「さて……まずは初仕事と行きますか……」

リミは、何も無い更地の地に立った巨大な塔の上から景色を見渡し、ながらそう呟くと、空に手を翳し、数多の世界の様子を眺めた

その様子の中から、リミはある三つの世界に目を付けた

リミはまず、右の世界を見た

その映像には、女の子のような顔付きをしたアサルトベストを着た男の子が、巨大な犬を倒している姿が映っていた

「この子は、中々の腕前ね。しかも、《宝探し屋》だなんて……次は真ん中ね」

次にリミは真ん中の世界を見る

その映像には、一人の刺々しい青年が、不気味な人物に勝負を挑み、呆気なく負けている姿が映っていた

「あちゃー、不様だなあ……仮にも《死の恐怖》って言われてるP KK？さて、最後は左ね……」

最後にリミは、左の世界の映像を見た

その映像には、赤毛の青年が一人の女性と戦って、予測できなかった自体に発展した様子が映っていた

その時であつた、リミは目を光らせて立ち上がり、目を閉じて何かの言葉を唱えはじめた……

「エフア ril ティ・エフエリクチュア・オルメテュス・ガ・マルフアリエ…… 無数の可能性よ…… 鎖となりて今、紡げ」

言葉を唱え終えたリミが目を開くと、三つの世界に異変が起こった。三つの世界が映っている映像が、それぞれの世界の人の叫び声の後、光に包まれて消えたのである。

リミは踵を返して塔の中へ入って行った。

彼女は一体何をしたのか、それはわからない。しかし、わかることが一つだけある。

これは大規模な戦いの始まりなんだと。

12・30 場所不明（エリアアンノウン）

2009・12・30

「場所不明」

「う……うーん、アレ？ここはどこだ？僕は確か、エジプトの遺跡の中で、アヌビスと戦って……それから何か変な光に包まれて……そうだ！サラーさんは？」

男の子は、見知らぬ海岸で目を覚まし、周りを見渡した

そのアサルトベストを着た男の子は女の子のような顔付きをしていて、額には暗視ゴーグルを乗せており、そして右手にはナイフを、左手には拳銃デザートイーグルを持っていて、男の子はそれをポケットにしまうと、何かを見付けたのか、そこに駆けて行った

「サラーさん！」

男の子は、花畑の真ん中で倒れている彼がサラーと言った老人を見付けて、そこに駆け寄る

「……おお……九龍君、無事だったのだな……」

「サラーさん、呑気な事を言ってる場合ですか！周りを見てくださ
い！」

九龍と呼ばれた男の子は、サラーにそう言つと、サラーは周りを見渡して仰天した

「何と、一体ここはどこじゃ？レリックドーンの奴らは？ましてや、ここはエジプトなのか？」

「……見るかぎりではエジプトでは無いと思います。とにかく、今はここを出しましょう」

九龍とサラーは立ち上がり、海岸沿いを歩きだそうとした

その時であった

《……新たな熱源反応を確認》

「熱源反応！？あの茂みからか！」

九龍は小型のパソコン《H・A・N・T》を取り出してその位置を確認すると、ホルスターからデザートイーグルを取り出し、ポケットからパチンコを取り出す

そして彼は足元に落ちていた木の実を拾い、それを反応のあった方に飛ばした

地雷の可能性も高い

そう考えた九龍は、罠を確認する為に木の実を飛ばしたのだ

しかし、茂みの中から出て来たのは、九龍が見たことも無いモノだった

「……何だ、この変な生き物は？」

九龍は目の前の跳びはねる生物に思わず気を緩めてしまい、銃を降ろす

しかし、その跳びはねる生物は、容赦なく九龍の顔面に体当たりを

かまし、後ろの尻尾みたいな何かで顔をピチピチはたく

「あばばばばば！」「

唐突の出来事なので、彼は成す術もなく顔を左右に振り回される

「あばばばばば！ばあ！」「

九龍は、右手のデザートイーグルを、生物の横に突き立てて、三発発砲した

デザートイーグルの弾を受けた生物は、その場に落下して事切れた

「はあ……はあ……何だよコイツ」

両頬をぷっくり腫らしながら、九龍はデザートイーグルをホルスタ―に戻してそう言った

「……っ！九龍君、さっきの茂みを見てみなさい」

サラ―は、突然そんな事を言い出す

九龍は、サラ―の言った通りに先程の茂みを見ると、そこには扉のような何かがあった

「う……嘘！？さっきまでそこに何も無かったのに？」

「僕にも分からん、さっきから唐突過ぎることばかりで、気が狂ってしまいそうじゃわい」

「……もしかして、この扉はエジプトに続いているのかもしれませんが。多分、ロゼッタの救援なのかも知れませんが」

九龍は、扉を調べてみる

万が一これが罠であつたら、多分この先には仕掛け天井や毒ガスのトラップがあるかもしれない

九龍は恐る恐る扉を開けて、扉の隙間から閃光手榴弾を投げる

それから彼は、すばやく扉を閉めて、耳を塞ぐ

すると、扉越しに爆音と光が漏れだし、さらに誰かの悲鳴が聞こえ

た……悲鳴？

「……えっ？」

九龍はサラの腕を掴み、勢いよく扉を開けて中に入ると、そこにはピンク色の髪をした女の子が気を失って倒れていたのだ

「……あははは、や……やっちゃった」

さらに、九龍は目の前に赤い髪のお坊ちやま印象がある男の子と、色っぽい女の人が、こちらを睨んでいるのを感じ、額に汗を流した

……

これが彼、「葉佩九龍^{はちりゅう}」とリミ

そしてこれから始まる戦いの仲間達との出会いである……

一方その頃、《三人目》の人物は……

「でやあああああ！」

「ぐわあ！」

ヘソの出ている黒い服を着た白い髪の青年は、武装をしている敵に追われながらも、必死に元いた場所に戻ろうとしていた……

しかし、その話は次の機会に

12・30 場所不明（エリアアンノウン）（後書き）

（ 、 ）ノシくこんにちは、ゴクトです

アイマスSPの小説が連載中のなか、今回はプロジェクト ULSの真の部分、あらゆる物のクロスオーバーと言う形でこの小説を書かせて貰ってます

今回はキャラに関する諸注意を言いに来ました

その諸注意とは、リミに関してです

実は彼女は、現在連載中の「三人の道」でも奥村利美（あだ名もリミ）として参加していますが、設定上アイマスの方では全くの別人です

まあ、このアンリミとアイマスでの自分の小説でのクロスオーバーも、やるにはやるんですが……

一応言っておきます

覚悟してください

1・2・3 【集結】（前書き）

リミ・アルムレット
（アンリミオリジナル）

年齢 18

身長 157.8

体重 53.4

胸（笑） 92

本作の主人公の一人で架空と現実の世界を一つにした張本人
一見自由奔放な性格に見えるが、女神という任を任されている故に、
責任感は強い

「はあ……はあ……」

「いたぞ！あそこだ！」

飛ばされた先はエジプトだった……

志乃を取り戻すために、俺は「ヤツ」に戦いを挑み……呆気なくやられてしまった

しかも、目を覚まし外見を見ると、俺はレベル1に戻されていて……しかも……

「捕まえる！捕まえてボスの元に突き出してやるんだ！」

目覚めた場所はリアルで、しかも武装したヤツらに追われるハメだ

……

くそ……何て様だ……

「とにかく、今は逃げるしかねえ。どこか隠れる場所は……あつた！」

俺は近くに置いてある大きめなダンボール箱を見つけ、急いでその中に入った

「……」

息を殺して変な奴らに見付からないようにじっとそのダンボールの中で隠れていると……何やら悲鳴が聞こえた

しかも三人だ

俺はダンボールの僅かな隙間から外を覗いてみると、そこには黒い服を着た赤い髪の男が立っていた

見た感じ「The World」のプレイヤーでもNPCでもないしかも、リアルにあんな服を着て、しかも剣何か持ってるヤツなんているわけがない……

俺は、その囲まれている男を見ていた……

男は、銃を持ったヤツ相手に剣なんかで立ち向かった

ヤツらは銃を発砲するが、男には全く当たらない。

避けてやがる、それも弾丸を……

「伏せろお！」

男はいきなりそう言い、俺は咄嗟に追っ手にバレるのを覚悟して伏せる

瞬間、俺の入っていたダンボール箱の上部が、一瞬で舞い上がって

いった

俺は顔を少しだけ上げる、すると……

「っ！うわああああ！！」

俺の目の前には追っ手の頭を抱えている胴体しかないモノや首が無いモノ、さらには腹を捌かれて内臓を^{はらわた}ぶち撒けているモノがあり、その眼前には、赤い髪の方が返り血を浴びる事なく立っていた

「……行け」

ソイツは、俺の前で剣先を右に向ける

「……アンタは？」

「俺はコイツらを始末する。急げ、でないとまた奴らが来る」

ソイツが顎で見てみると合図を見ると、俺はとんでもない物を見ってしまった

戦車である

その戦車は、間違いなくこちらに近づいている

「お前はどうすんだ？アレを一人で片付けるのか？」

俺はソイツに質問すると、ソイツは俺の胸倉を掴んで

「早く行けってんだろ屑が！」

そう言うと、ソイツは俺を先程指差した方向に投げ、再び顎で今度は「行け」と合図した

「……アンタ、名前は？」
俺は唐突にソイツに名前を聞いてみた

「……何のつもりだ？」

「いや、せめてアンタの名前だけでも知りたくてな、教えてくれな
いか？」

「……」

ソイツは、俺に背を向けながら……

「……アツシュだ」
っと呟いた

「アツシュ……だな、その名前覚えておく」
俺はソイツ……アツシュの名前を聞いた後、一目散にアイツの言っ
た道を走っていった

「……ケツ、てめえは名乗らないのかよ」
アツシュは、そう呟くと剣を再び抜き、数多の戦車に突っ込んで行
った……

「こんなところに扉があつたとはな……」

「

俺はアツシュがいる場所から少し離れた所まで走り、この扉を見付
けた

「今は躊躇ってる場合じゃねえ、またヤツらが来るかも知れないか
らな……一か八かこの扉の中に……ダーツ！」

俺は扉にぶち当たるように乱暴に扉を開ける。
すると、その扉の先には……

「あー！」

パンツ一枚の女の子が目の前にいたのだ

⌈
⋮
⌋

俺は、頭の中が真っ白になった

トライエッジ
三爪痕に返り討ちにされ

The Worldのデータは全て初期化されたあぐくエジプトに
いて

そこで変な奴らに追われる嵌めになって

最後に……

「……キヤアアアアアアアアアアアアアアアアアア！」

顔を思い切りぶん殴られた

災難だ……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1817j/>

UNLIMITED STARS

2010年10月15日21時39分発行